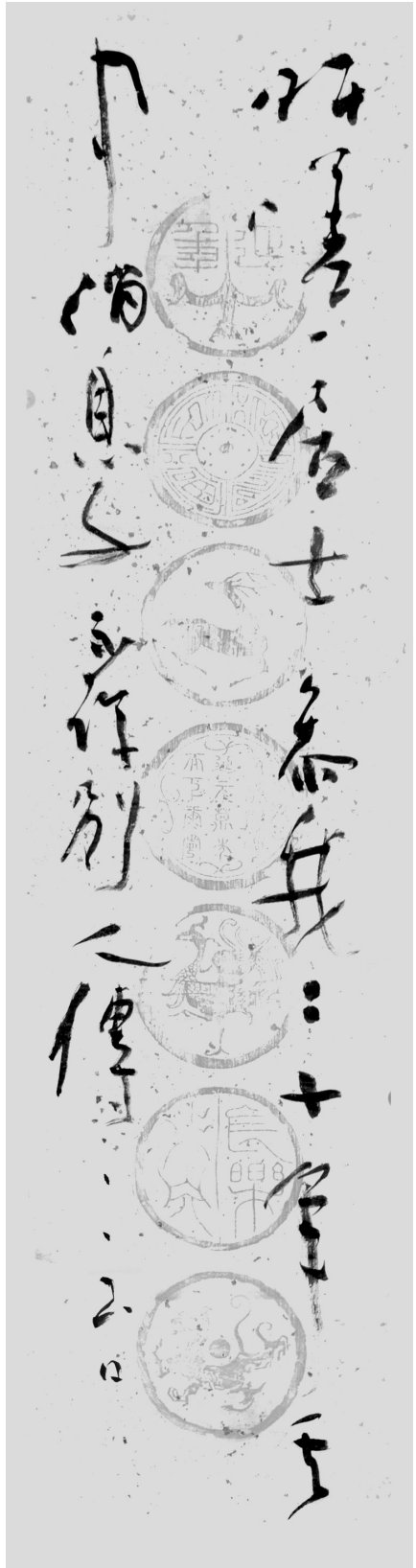


6月25日正午必着

明石春浦先生書



吁嗟一居士 あゐいぢこじ
 其中消息子 そのなかのしよそくし
 不許別人傳 われにさんずるしじじゅうねん
 參我二十年 べつじゆのてんをゆるさず

(良寛)

ああ 門弟の 左一居士 わたしについて 二十年。
 道の奥義を よくきわめ 伝授できたは これひとり。

明石幸子書



夏の夜の 月の光に 天なるや 遊ぶ白雲 たのしくは見ゆ (窪田空穂)

窪田華岳先生書



疊雲長風（韋應物）

幾重にもかさなった夏雲と
遠く彼方より吹き渡る風。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

梧竹風清六月寒（岑 參）

梧竹風は清く六月寒し。

暮春和氣應 白日照園林
青條若摠翠 黃華如散金 （張 翰）

暮春和氣應じ 白日園林を照らす
青條翠を摠ぶるが若く 黃華金を散らすが如し

送三人入蜀 （李 遠）

人の蜀に入るを送る 李 遠

蜀客本多愁 今君是勝游

蜀客 本愁い多し 今君は是れ勝遊なり

碧藏雲外樹 紅露驛邊樓

碧は雲外の樹に蔵せられ 紅は驛辺の楼に露わなり

杜宇呼名語 巴江學字流

杜宇 名を呼んで語り 巴江 字を学んで流る

不知煙雨夜 何處夢刀州

知らず 煙雨の夜 何れの処にか 刀州を夢みる

梅雨ふけの草にうつろふ 日の光 蟲ややに鳴く 聲ぞ聞ゆる （土田 耕平）

青桐や竹にそよぐ風は、すがすがしく、六月でも暑いどころか寒いくらい。

晩春には和やかな気が応じて起り、白い太陽の光は林を遍ねく照らす。青葉の枝はかわせみの羽を あつめたかともまがうばかりであり、黄いろの華は黄金を散らしておいたかのごとくである。

半紙部規定課題A

6月25日正午必着

草 新
編 年
芳

(遍は編に同じ)

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

6月25日正午必着

行書

新年芳
草遍

隸書

新年芳
草遍

明石春浦先生書

草書

新年芳
草遍

行草書

新年芳
草遍

徳高き上人、本来の姓は竺といひ、菩薩のごときお方、もとの名は林といひ、
 いったん春山の中に行っておしまいなれば、数知れぬ峰々の奥、お尋ねすることもできません
 新たなる年に、春のかぐわしい草があたりいちめん茂り、一日じゅう、白い雲は深くとざしこめる
 ささやかな官職にこの身を捧げて行こうとしておりますが、この凡俗の心を奇妙に思っておられることが、ここからでも
 わかります

寄「靈一上人」

劉長卿

高僧本姓竺

開士舊名林

一去春山裏

千峯不可尋

新年芳草遍

終日白雲深

欲徇微官去

懸知訝此心

靈一上人に寄す

劉長卿

高僧 本姓は竺

開士 旧名は林

一たび春山の裏に去り

千峯 尋ね可からず

新年 芳草遍く

終日 白雲深し

微官に徇って去らんと欲す
 懸かに知る 此の心を訝るを

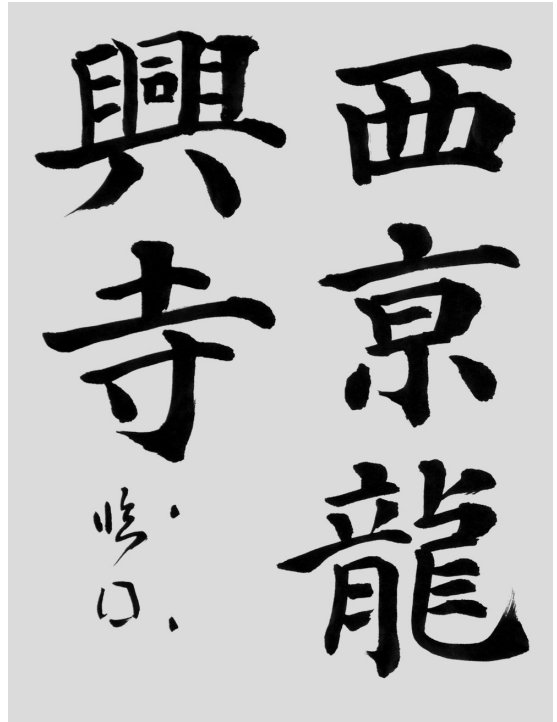
(出典)

朝日新聞社刊

「三体詩」下より

宿命潛悟如識金環摠
 持不遺若注瓶水九歲
 落髮住西京龍興寺從
 僧錄也進具之年昇座
 講法頃收珍藏異窮子

宿命潛悟。如識金環。摠持不遺。若注瓶水。九歲落髮。住西京龍興寺。從僧錄也。進具之年。昇座講法。……



西京、龍興寺

宿命潜悟如識金環摠持不遺若
 注瓶水九歲落髮住西京龍興寺從
 僧籙也進具之年昇座講法、
 春濤

宿命潜悟。如識金環。摠持不遺。若注瓶水。九歲落髮。住西京龍興寺。從僧籙也。進具之年。昇座講法。

唐 顏真卿・多寶塔碑

顏真卿（七〇九〜七八五）は、琅琊臨沂（山東省）の人で、字は清臣。代々、学者で能書家でもある家柄に生まれた彼は、幼くして父を亡くしたが、刻苦勉強して二十六歳の時に進士に合格し、以後唐王朝に生涯忠誠を尽したが、節を曲げぬ忠義剛直な人柄であるがゆえに、時の権力者に疎まれ、たびたび地方に左遷された。

顏真卿を一躍有名にしたのは、安祿山の謀反であった。唐朝を震撼させたこの事件は、彼の活躍で国家の危機を免れたのである。この功績を期に既に名があった彼の書もますます注目を浴びるようになった。

唐代は、王羲之流の典雅な貴族的書風を継承する風潮が強かったが、顏真卿はそれにはあきたらず、自由な精神をもちこもうとした。彼の性格そのままに、質朴で強靱な書風を形成していったのである。彼の書は一碑一面貌といわれ、その時々々の感興によって調子が異っており、一ごとに工夫が凝らされているといわれる。楷書においては、蚕頭燕尾といって、藏鋒による起筆の丸みや燕の尾に似た払い等、独特な表現法があるが、全体的には向勢に形をとり、懐の広い重厚な書風が特徴である。この多寶塔碑は、安祿山の乱以前、顏真卿が四十四歳の時に書かれたもので、今日見られる彼の作品の中では最も早い時期のものである。後の楷書のような個性的な筆法はあまり見られぬが、顔法と呼ばれる書風の基礎を成している、結構法的には完成度が高い。肉厚な線の内に筆力を込めた運筆法を修得したい。（春濤）



しら

かば

中学一年

雨宮春聲先生書



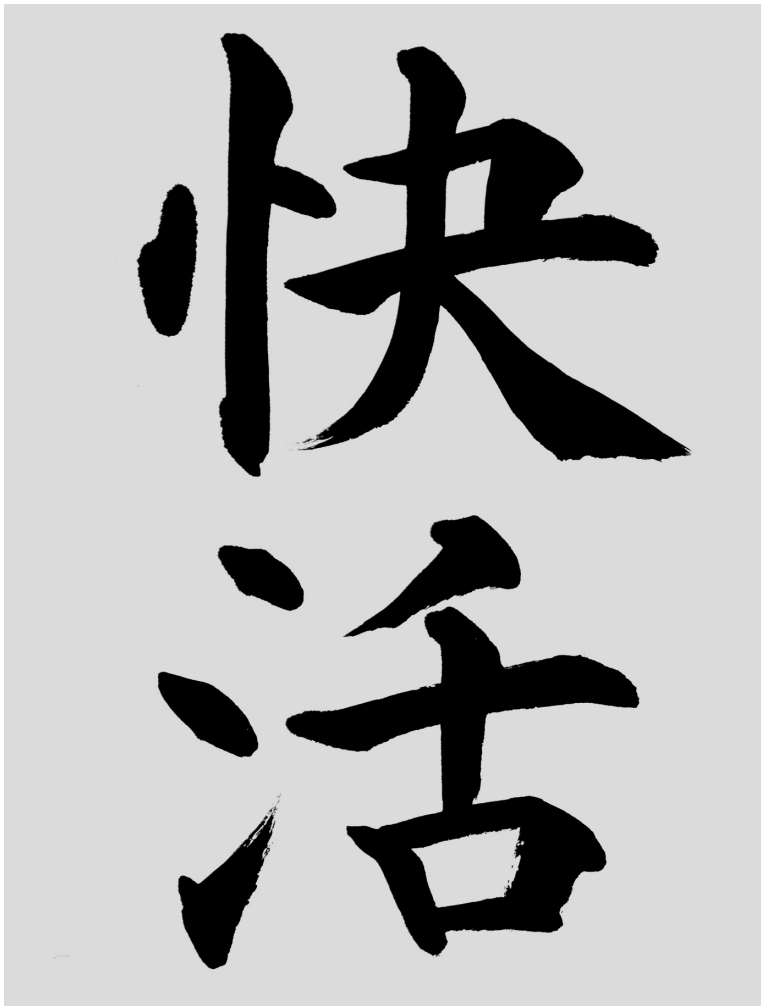
まい

ひめ

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



かい

かつ

小学五年

榎戸春龍先生書



たん

きゅう

小学六年

横川春川先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

6月25日正午必着



世 代 小学三年

藤田幸春先生書



大 豆 小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

と げ 小学一年・幼年



森戸春濤書

子 牛 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

山あいの静かな村で
小川が流れている

小学五年

財布を落としたの
で交番に届け出た

小学六年

水心で草で足心
く夏野かな来山

中学

深緑に包まれた湖畔
に浮かぶしろい箱舟

一般(級位)

雨そくぐ花橘はなたちばなに風過ぎて山ほととぎす雲に鳴くなり(藤原俊成)

雨そくぐ花橘に風過ぎて
雲に鳴くなり

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

あ	と
お	り
い	が
そ	と
ら	ぶ

幼年

り	小
が	と
	り
き	の
こ	さ
え	え
る	ず

小学一年

ふ	大
つ	つ
て	ぶ
き	の
ま	雨
し	が
た	

小学二年

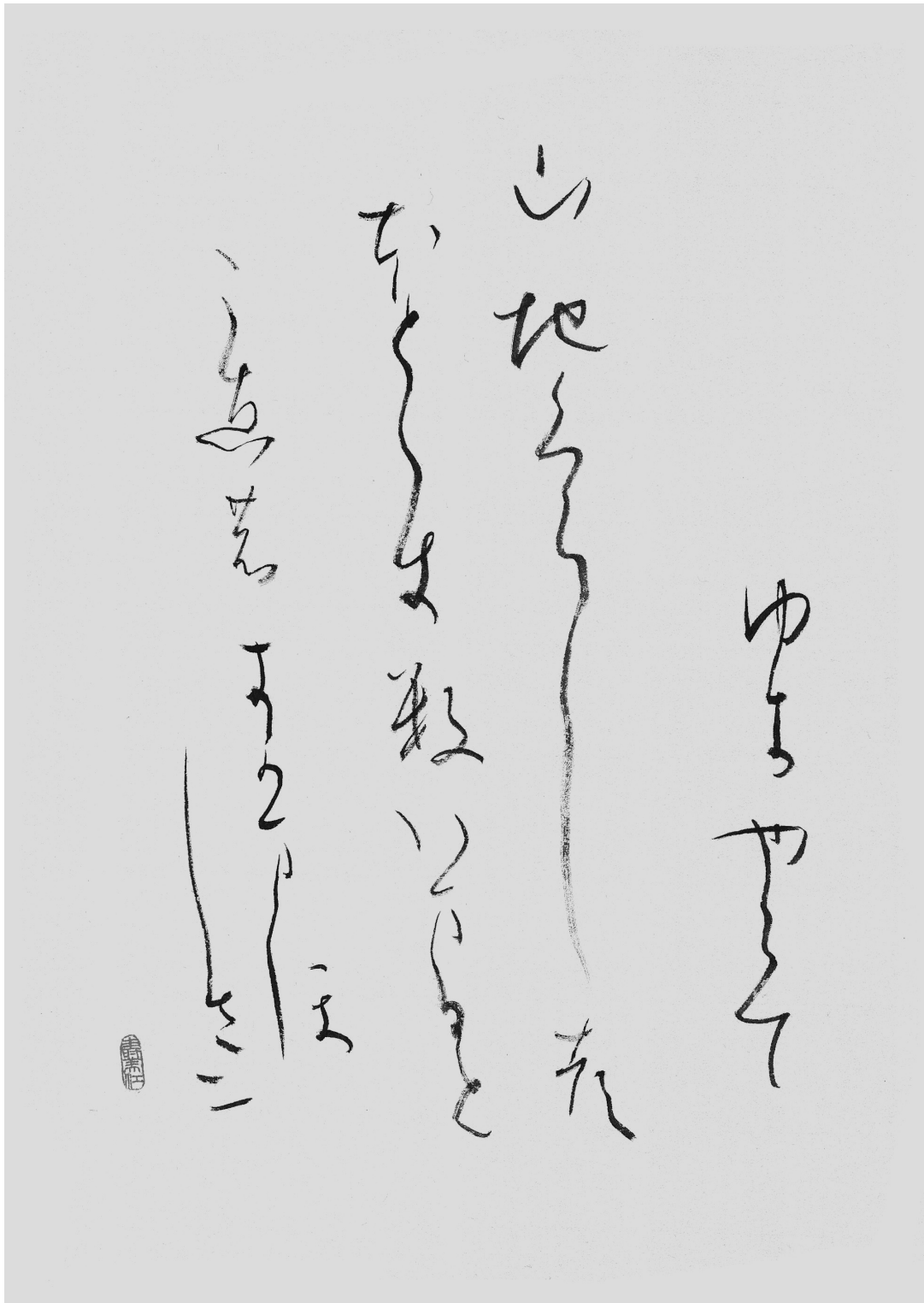
ふ	晴
じ	れ
山	た
が	日
見	に
え	は
る	

小学三年

の	庭
種	に
が	ま
芽	い
を	た
出	へ
し	ち
た	ま

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



岩本景楓先生書

ゆきやらで 山地くらしつ ほととぎす いまひとこゑの つかまほしさに
 支 都本 支数 万日 農 支可万 二
 (源 公忠)